



みかんの産地といえば和歌や県や愛媛県が有名ですが、実はみかん栽培の北限として知られる筑波山。そんな筑波山の南東側にある宝篋山（ほうきょうざん）で、50年以上みかん栽培に励まれているのは、小和田に住む野村さん。かつて旧筑波町はみかん栽培がさかんで、100軒以上のみかん農家があったそう。現在は2～3軒ほどです。



野村さんのみかん畑は山の斜面にあります。急な勾配の斜面に、100本あまりのみかんの木々。濃いオレンジ色のみかんが目の前に広がります。肥料の大部分は有機肥料を使用し、減農薬で栽培しています。太陽の光をたっぷり浴びて育ったみかんは、とても甘くてみずみずしく、濃厚です。



収穫は、みかんが10kgも入る大きなかごを両肩にかけ、ひとつひとつはさみを使って行います。重いみかんを背負いながらの急な斜面の上り下りはとても大変そうでした。



それでも、「地元のを喜んで食べてもらうのが一番の幸せ」と、笑顔でみかんを収穫する野村さん。そんな野村さんの心のこもったみかんは、子どもたちにも甘いと大好評でした！